

イネ科通信 36

ナギナタガヤ

2014/07/03

北アフリカ原産。高さ 10～70cm で広大な地面にしばしば大群落を形成することがあります。稈は細く植物体自身が細くて無毛です（写真3）。



（写真1）ナギナタガヤ（W氏撮影）



（写真2）夏のナギナタガヤ（インターネットから転載）



ナギナタガヤの栽培

現在はナギナタガヤを栽培する時代になっています。
以下はインターネットより転載しました（写真も）。

夏、ナギナタガヤは、枯れて農園地を覆いかぶさって、一面わらを敷き詰めたようになります。これによって、水の管理（雨が降って水の保水力やそれ以上の水量は排除して調整する役目）を行って、1種のマルチ作業の役割を果たします。ナギナタガヤの表面を踏むと、まるでスポンジの上を歩いているようにフワフワします。これは、ナギナタガヤが腐食し、繊維が綿状になり、そのかたまりがスポンジのようになるからです。さらに、これによって水分を含み、1週間ほど晴天が続いても、農園地の土

壤は少し湿気を保つ状態になっています。またナギナタガヤの根にはAV菌があり、これが根の発育をよくしています。そして、さらに腐食していくとナギナタガヤは、細かく分解し、良い土壌を作ります。（注）AV（アーバスキュラー）菌の機能としては、リン等の吸収促進、耐病性の向上、水分吸収の促進の3つが挙げられます。このため、AV菌根が形成されると作物は乾燥に強くなり、肥料分の乏しい地でも効率よく養分を吸収してよく育つようになります。下左（果樹園）、

下右（ナギナタガヤの穎果）

